

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名 グループホーム 敬愛

日付 平成19年3月31日
 特定非営利活動法人
 ライフサポート

評価機関

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 老人保健施設介護実務経験6年、居宅
 支援事業所介護支援専門員経験6年
 評価調査員 ケアセンター介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

外部評価の結果

調評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

設立して3年経過した平成18年度になって、このグループホームは大きく動き出し、大切な基盤を作り出した。当初から『敬愛』という名が示す通り、「利用者一人ひとりの人格を尊び、持っている能力を大切に、それぞれの人が生き甲斐を感じてもらえるよう支援していく」という理念は変わらないが、ホームの最もケアマネージメントで大切にしているのは『健康管理と機能維持』である。利用者に対しては『敬愛自慢の食事』である。栄養士が考えるメニュー、新鮮な材料、利用者の参加と心のこもった調理によって、利用者を満足させる食事が提供される。食事は皆の楽しみになっており、「この食事は、とても美味しいよ。まあ食べてみて！よそへ食べに行っても、こののを食べてたら、あんなのとても食べれない」と絶賛されている。食事の時間も、料理のことで話しの花が咲く。食べて楽しんで健康になるのが、このホームの特長である。

そして、足腰の衰えを防ぐ、よく歩く、身体を動かす。指先をよく使う、そして口腔運動をして、いつまでも元気で食べ、身体を動かせるよう、毎日皆が大好きな氷川きよしのズンドコ節に乗ってする独自の体操は今年も健在だった。手作業もよくする。塗り絵やドリルもするが、化粧タオルで可愛いドレスを作る利用者も健在だった。調湿を兼ねたタオルのドレスが装飾も兼ねていた。

これらの事はずっと継続されており、利用者の健在振りを発揮しているが、昨年提案した家族会が発足していた。家族会を通して、ホーム運営に家族の役割が発揮し出し、利用者や家族の絆を基に新しい展開が期待できる。職員も、利用者一人ひとりの状態を深く観察し、勉強を重ねながら利用者の健康維持に自信をつけ、排泄についても個人の状態でパットの使い方を変えたり、リハビリの方法を考えられるようになった。そして利用者も職員自身もケアに対する安心感と自信が持てるようになった。そして新しく施設長になった男性職員と各ユニットのリーダーがスクラムを組んで、この3ユニットのグループホームを支えていけるような新しい体制が生まれた。

特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした

介護計画と利用者とのコミュニケーションに必要な利用者の過去の経歴や経験などの情報は大切である。情報収集は過去を調べる事も重要であるが、日常生活からも、この情報は日々発信されている。職員で共有出来る記録方法も考えていって欲しい。

III ケアサービス(つづき)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か 代表者は「私が入れるグループホームにしておきたい」と言った事が、このホームをつくる全てだと感じる。「その人の良い所を探して、良い所を見つけ、褒め、共感していきたい。そして職員には具体的に「気配り・目配り・心配り」をいつも心掛けるよう話している」と付け加える。 「利用者毎に、正と副の担当者が付き、それぞれ自分の担当する利用者をしっかり見守り、他の職員と互いに情報を伝え合い連携をとっている。職員の役割と責任を明確にして、利用者が安心して暮らせるホームを整え用者が安心して暮らせるホームを整えると共に、職員の質の向上を図っている。 自分の親を入れてもらうホームを望む人も多い。本当に認知症になった人の気持ちを汲み取り、認知症になってしまった人の目線で一つひとつの生活が考えられるホームの代表になってもらいたいと期待している。		

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か 田園地帯で、ゆっくりとした雰囲気の中で佇むグループホームである。ホームからは日頃田んぼの色が色が変わっていく様子を見ながら、利用者は四季の移り変わりを感じ取り、洗濯物を干したり、しまい込みながら、その洗濯物の乾き具合を感じながら、もう夏が近づいたなあ気付くにない。洗濯物を取り込むと、リビングルームで、皆が洗濯物をたたんでいく。リビングルームは利用者の生活の場になっている。 広々としたリビングルームの中では、歩行訓練をしたり、歌を唄ったり、塗り絵をしたり、あるいは女性利用者の作ったタオルの可愛いドレスを飾りつけたりする。 利用者は、殆どどの時間をリビングルームで皆と過ごしている。		

記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か
	介護計画と記録をつくることで、最重点に考えていることをアンケートで問うと、「個人の過去の経歴や経験に対するアセスメント」と答えてくれた。このホームの記録は、簡略化しても良い所は記号化したりして、それを見ると一人ひとりの介護記録の1ヶ月分が一目で見えるようになっている。よく考えた記録だと感心する。生活記録等はその人の生活の状態が良く読み取れるようなメリハリのある記述にして欲しいと思う。 介護計画を見ると、アンケートにもあるように、利用者の過去の情報は少ない。それぞれが過去に経験したことや、その人の本質ともなる性格やくせ、草草等も必要である。しかし、このようなことは、ホームの中で、生活している様子や発言からも、たくさん情報が発信されている筈である。職員が、一言聞いた言葉を何気ない見逃さず、きっちり受け止めるかで、情報の収集は大きく変わる。経歴も同じである。こんなことを実現する為の聞き取りの関心度と記録の方法も考えて見て欲しい。

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人で行えることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。 地域への連携の路を開いた。町内会に入り、協力したり、協力を受けたりする関係も出来つつある。地域への広報紙も作り始めた。このホームには、地域交流、物品、園芸、広報、レクリエーション、研修、食事等の役割を分担する委員会があり、職員が2~3の役割を担っている。園芸は、菜園を育てる。広報委員会は認知症やケアの知識、ユニットの様子を地域や家族に知らせる。その中で地域委員会は愛育委員、家族会、町内会等との連携をする重要な役割を担っている。このような役割や委員会の活動が、このホームの活動の原動力となっているのだろう。色々ホームで計画する行事が、地域の人々のホームへの関心度を高めていききっかけにもなるだろう。今後楽しみのあるグループホームである。		